

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	施術概論 1	
科目基礎情報							
開設学科	柔道整復科		コース名			開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		授業形態	講義			
教科書/教材	教科書（一般臨床医学 第2版 -社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。						
担当教員情報							
担当教員	富田 泰彦			実務経験の有無・職種	有・医師		
学習目的							
柔道整復師は医療資格であり、資格取得後に患者の患部へ施術をすることを業務とするため人体の構造と機能を熟知する必要がある。しかしながら医療現場では柔道整復師の業務範囲外の疾病と思われる患者に遭遇することがあり、速やかに医師の診断を仰ぐ必要が出てくる。西洋医学は、応用医学の一部門として、科学技術の恩恵を受けて発展してきている。病理学的背景に裏づけられた疾患分類は疾病の把握が容易であり、理解しやすい。柔道整復術は、西洋医学とは診断方法や治療法などで多くの点で異なっているため、国民の健康向上を担う医療人として内科学的な一般臨床医学の知識を学ぶことで医師との連携を密にすることのできる人材の育成が目的となる。							
到達目標							
医療機関では、患者がもっている精神的・肉体的異常を、まず正確に把握しなければならず、こうした医療行為が診察であり、それにより患者が健康に復帰するために行う処置、すなわち治療を施すための根拠が得られることになる。診察では、患者の訴える自覚症状（愁訴）を聴取することから始まり、患者の身体に現れている異常な他覚的所見（徴候）を眼でみたり、手で触ったりして観察する。ついで、診察を通じて患者の異常状態なり病名を判断する。この行為を診断という。診察から診断について学ぶことで柔道整復師本来の業務範囲に活用できることが目標である。							
教育方法等							
授業概要	教科書を中心として授業を進める。医療従事者は症状・診断法・注意すべき顔貌や愁訴など、いくつかの疾患を念頭に置きながら、それらのなかからその患者に最も妥当と考えられる疾患名を判定できる能力を必要とされる。柔道整復師として臨床現場においても求められる鑑別診断の知識を、内科学を学ぶことで育成する。						
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 （口頭・実技）	0%					
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	診察概論 診察各論①			診察の意義・問診の意義と方法について理解する			
2回	診察各論②			視診の意義・方法（栄養状態や精神状態ならびに異常運動など）について理解する			
3回	診察各論③			全身から局所（頭部・顔面・頸部・胸部・腹部・背部・腰部・四肢）の視診について理解する			
4回	診察各論④			打診・聴診の意義と方法について理解する			
5回	診察各論⑤			触診の意義と方法について理解する			
6回	診察各論⑥			生命徴候（バイタルサイン）で体温・血圧・脈拍・呼吸について理解する			
7回	診察各論⑦			知覚検査の意義（知覚の種類）と方法（表在知覚や深部知覚の検査など）について理解する			
8回	前期7週までの振り返りと確認演習			1回～7回の知識が蓄積されているか確認する			
9回	診察各論⑧			反射の種類と反射検査の意義と注意事項について理解する			
10回	診察各論⑨			代表的臨床症状（発熱・出血傾向・リンパ節腫脹・意識障害）について理解する			
11回	診察各論⑩			代表的臨床症状（チアノーゼ・関節痛・浮腫・肥満・やせ）について理解する			
12回	検査法			血圧・脈拍・呼吸・体温や心電図・脳波・筋電図・検体・運動機能の各検査について理解する			
13回	主要な疾患			呼吸器疾患総論（主要症状・腫瘍所見）について理解する			
14回	前期13週までの振り返りと確認演習			9回～13回の知識が蓄積されているか確認する			
15回	まとめ			半期で取得した知識の確認			